



価値あるモノづくりを目指して

■ 細野 昭雄



私は工業高校卒業後に某大手家電メーカーの内定をもらっていましたが、周囲の反対を押し切って、設立間もない小さな電子計算機メーカーへと就職しました。それはきっと面白いことができるという直感が働いたからだだったと記憶しています。ICチップが登場する前でしたので、コンデンサやトランジスタをハンダで繋ぎコンピュータを手作りしていた時代でした。未開の分野だったコンピュータに興味を持ち、基板の組み立てや配線、検査作業などに従事し、ゼロからの開発を経験しました。その後、大学へ移って学生兼助手として学内ベンチャーに携わり、そこからメーカーを転々とした末、「ほかにはない面白いモノづくり」を求めて1976年に4人で今の会社を立ち上げました。それから40年以上、メモリやハードディスク、液晶ディスプレイなどさまざまなコンピュータの周辺機器開発に携わり、今でも最前線の技術に置いていかれないよう頑張っています。

ここ最近、あらゆるモノがインターネットに繋がる「IoT = Internet of Things」という言葉が盛んに使われています。IoTこそ地域経済の活性化・地域創生に役立つツールだと考えます。なぜならITやサービスを利用すれば地方の人手不足が解消できたり、より現場に近いところで生産性向上につなげていけるからです。まだまだ現状は、グローバル企業のサービスに便利さや恩恵を受けつつも、画一性や排他性の仕組みには窮

■ 細野 昭雄

(株) アイ・オー・データ機器 代表取締役会長

1944年石川県金沢市生まれ。1962年石川県立工業高校電気科を卒業後、ウノケ電子工業（現PFU）に入社。1965年金沢工業大学情報センターなどを経て、1976年、(株)アイ・オー・データ機器を設立、代表取締役社長に就任。2017年9月代表取締役会長に就任。



屈さを感じます。今こそ、個々人、地域の特性に合わせたサービスが必要であり、地場の企業やベンチャー、若者にも真に活躍して欲しいと思っています。

また一方で、IT人材の不足はさらに深刻化し、特に人材育成は今後の市場成長の鍵を握ります。従来「読み書きそろばん」が重要だったように、これからのIT社会においては、IT業界やプログラマを目指さなくとも全員にプログラミング的思考(論理的に考える力)が必要になってきます。学校や家庭だけではなく、地域社会や企業が一体となって自主的・自発的に学べる環境づくりが求められます。こうして育った子どもたちは、後々、多くのアイデアや技術を生み出し、地域経済・産業をより活性化していくことでしょう。「人がITに使われるのではなく、自然に使いこなし、情報を社会に活かしてもらう」ことこそが普遍的な価値観であると考えます。

ビッグデータ、人工知能(AI)の活用がイノベーションを起こしていくデジタル化社会は、かつてのコンピュータ黎明期に自らが築いてきた躍動感と同様なものが感じられます。価値あるモノづくりの探究、将来の人材育成支援にさらに尽力したいと思います。